

RPAを活用した新たな業務運営DX-三重大学モデル- 事務部門からの新たな価値の創出について

- 外部資金の獲得等の予算増加は、予算執行時の支払伝票作成件数も増加することになる。この問題を解決すべく令和2年度よりRPAにて支払伝票作成業務を自動化させるフローを職員自ら構築した。
- 支払伝票作成業務を自動化した結果、業務削減時間は2,000時間を超える成果となった。
- 本取組と削減効果について様々なイベントにて登壇発表したことにより、本RPAに対する他機関からの視察やオンライン相談等は40件以上の受入実績となった。
- 今回、構築したRPAフローをパッケージ化し、他機関へ有償提供することによって業務効率化の成果物を活用し事務部門から新たな価値の創出を行う。

【概要】

三重大学財務部財務管理チーム調達室では、DXによる業務効率化を積極的に行っており、中でもRPAを用いた運用コスト減を実現している。

また、この業務効率化の成果物であるRPAのフローについて本学知財ガバナンス部門が知財方面をバックアップし、構築したフローをパッケージ化することにより事務部門が生み出す新たなビジネスモデルとして価値を創出、今後はパッケージ化したものを有償提供し、全国の大学へ展開していくことを予定している。

【三重大学モデルとは】

本学はこれまでDXに対する取組について先進的に行ってきた。その中で特色すべきこととしては、令和2年度よりDXに係るプロジェクトを組織化し、内製的にRPAなどを構築し業務効率化を実践してきたことである。

今回は、この内製的に構築したRPAフローを権利化し、他機関へ有償提供することで本来コストセンターである事務部門から新たな価値を創出、新たな本学の収入源とする。こういった事務部門におけるRPAを活用した新たなビジネスモデルを「三重大学モデル」と呼ぶ。



Amazon Business Exchange 2023
登壇時の様子

<本件に関するお問合せ>

三重大学財務部

財務管理チーム調達室長 平山 亮

TEL: 059-231-5311

E-mail: tyoutatu-s@ab.mie-u.ac.jp

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)

- ✓ 主にPC上で手作業にて行っているルーティンワークを自動化するツール
- ✓ PC上で操作するシステムをカスタマイズして自動化するわけではなく、既存システムへの影響は無い
- ✓ プログラミングスキル無しで業務を自動化するためのフローの作成が可能
- ✓ 本学調達室では、財務会計システムへの入力業務についてRPAフローを内製的に構築、自動化に成功

- ✓ 本学ではMicrosoft社製のPower Automate for desktopを無料にて利用しており、ローコストにて事務運用コスト減を図っている

- ✓ 構築にあたっては、ルーティンワークのアクションを選択してRPAフローを構築
直感的な操作による構築ではあるものの、未だRPAに対する抵抗感も感じられる



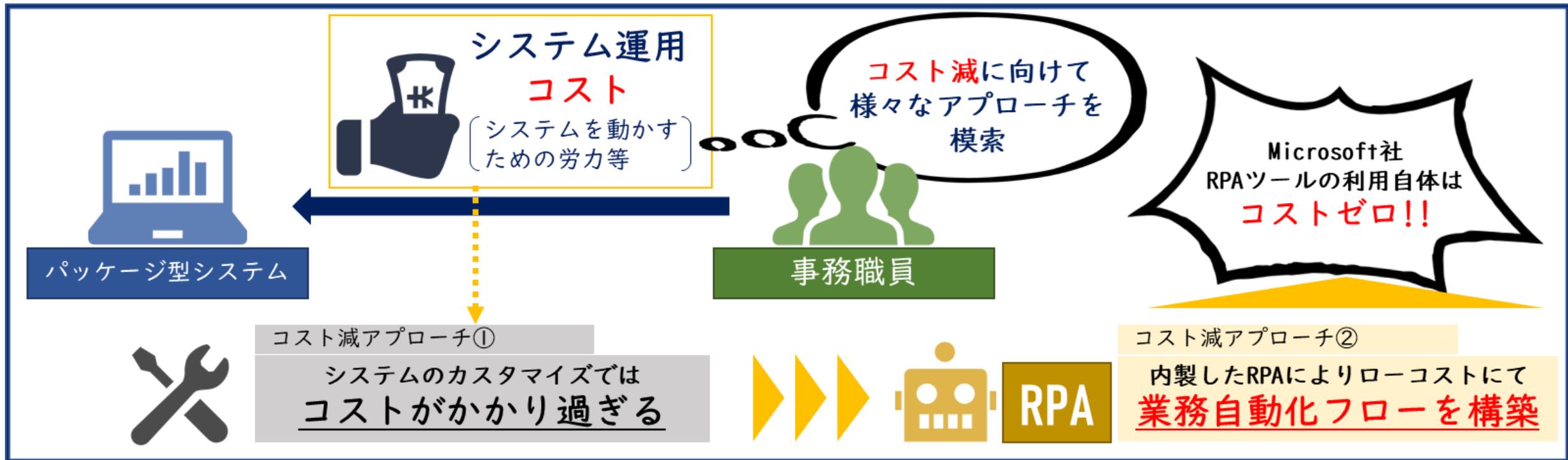
ステージレベルと概要

主な取組



RPAフロー構築に至るまでの背景

- ✓ 事務部門では主に汎用的なシステムへの入力業務が多く、その運用コストを如何に低減するかを画策
- ✓ コスト減のアプローチを模索し、システムのカスタマイズではなくRPAフローを内製により自ら構築した



ローコストなRPAを用いて、**運用コスト減を実現**

調達室におけるRPA適用事例

支払伝票作成フロー（財務会計システム上の流れ）



R4年度実績
適用伝票 40,000件以上
業務削減時間 約2,000時間

課題



長年調達担当者を悩ませていた課題はRPAで解決できるものと判断

RPA適用前

支払伝票処理

RPA適用後

支出契約決議書作成（入力）

支出契約決議書作成（入力）

以下 ” 1件ずつ ” 処理

Excel ” 連続 ” 入力（フロー変更）

支出契約決議書出力（印刷）

RPA起動（以下作業自動化）

支出契約決議書出力（印刷）

支出契約決議書確定

支出契約決議書確定

債務計上票作成（入力）

債務計上票作成（入力）

債務計上票出力（印刷・決裁）

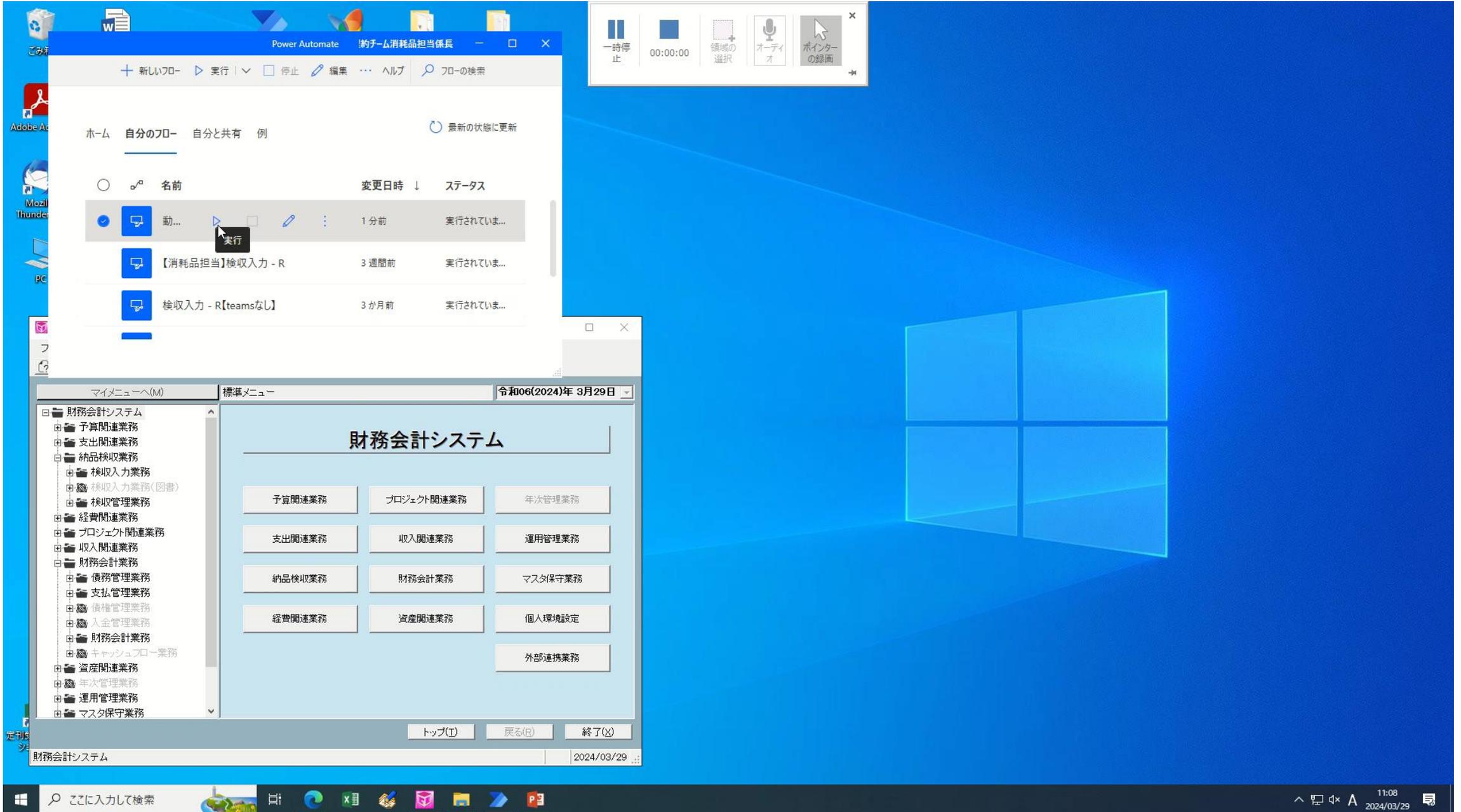
債務計上票出力（印刷）



事前にExcelに必要事項を ” 連続 ” 入力することでシステムへの ” 1件ずつ ” 伝票を開いての入力はRPAが行ってくれる

R元年度構築
R2年度より運用開始

調達室におけるRPA適用事例



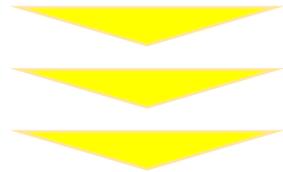
The screenshot displays a Windows desktop environment. In the foreground, a Power Automate window titled "約チーム消耗品担当係長" is open, showing a list of flows. The first flow, "動...", is currently running. Below it, there are flows for "【消耗品担当】検収入力 - R" and "検収入力 - R【teamsなし】".

In the background, a financial accounting system window titled "財務会計システム" is visible. The system menu on the left lists various tasks such as "予算関連業務", "支出関連業務", "納品検収業務", "経費関連業務", "プロジェクト関連業務", "収入関連業務", "財務会計業務", "債務管理業務", "支払管理業務", "債権管理業務", "入金管理業務", "資産関連業務", "年次管理業務", "運用管理業務", and "マスタ保守業務". The main area of the system shows a grid of buttons for these tasks, including "予算関連業務", "プロジェクト関連業務", "年次管理業務", "支出関連業務", "収入関連業務", "運用管理業務", "納品検収業務", "財務会計業務", "マスタ保守業務", "経費関連業務", "資産関連業務", "個人環境設定", and "外部連携業務".

The desktop background is the standard Windows 10 blue wallpaper. The taskbar at the bottom shows the search bar, task view, and several application icons. The system tray in the bottom right corner displays the date and time as 11:08 on 2024/03/29.

これまでの学外発信及び全国への波及効果

- ✓ 令和3年度に国立情報学研究所（NII）主催の「大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム」にて登壇、高い評価を得て、全国から視察等の依頼が殺到



- ✓ 他大学の視察受入・情報交換については、令和3年度から令和5年度にかけて複数の国立大学法人の他、県立大学や市役所、企業など40件以上の視察受入・情報交換を実施
- ✓ 令和4年度にはRPAの講演会の依頼を受け、福井大学及び鈴鹿工業高等専門学校で本学の取組について講演会を実施
- ✓ 令和3年度にはアマゾンジャパン主催の「活用共有会 JAB-DAI」にて登壇、令和4年度には同じくアマゾンジャパン主催の「Amazon Business Exchange 2023」にて登壇し、RPAでの伝票作成業務自動化を説明Amazon Business Exchange での登壇は国立大学法人初の登壇となった



RPAフローのパッケージ化による、事務部門からの価値創出



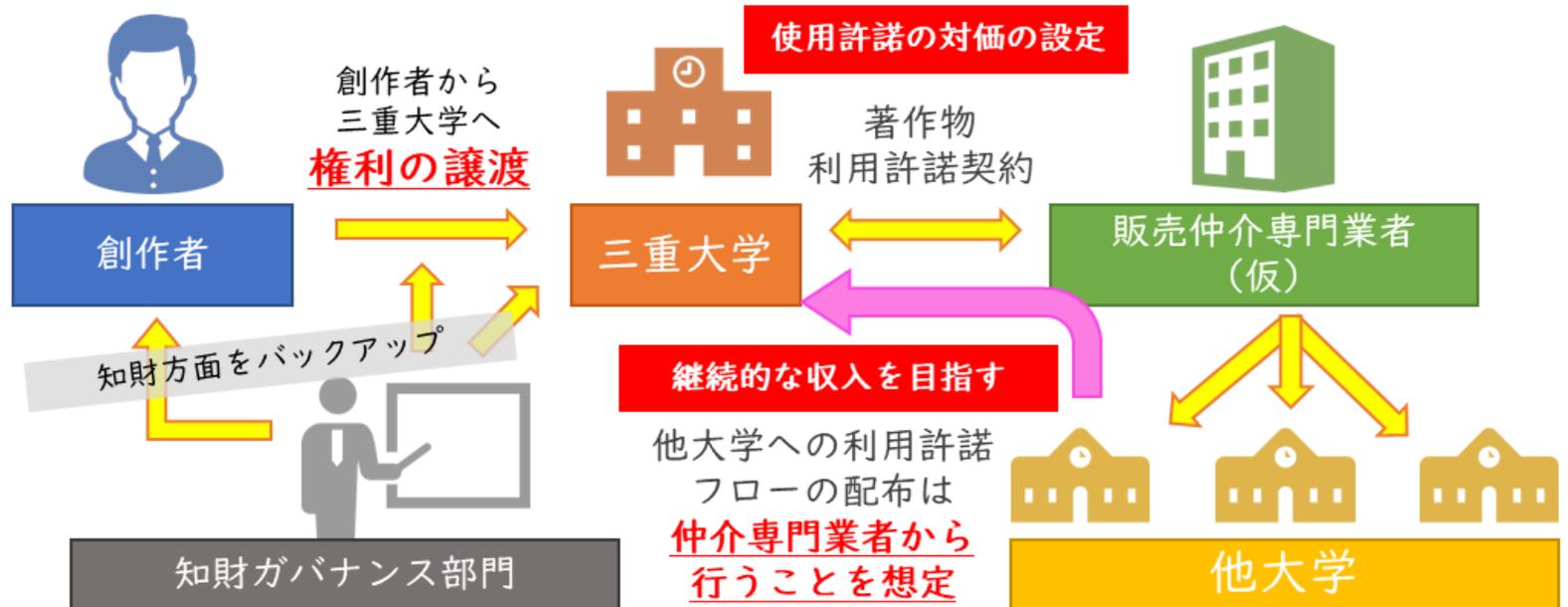
- ✓ 大学のコストセンターとしての認識である **事務部門の活動が収益を生み出す** という発想転換
- ✓ 業務効率化で生まれた事務システムとの隙間を埋める業務モデルを **パッケージ** として販売し **収益化** を図る
- ✓ DXを低コストにより大学現場にフィットしたものとして広めていく活動としても有益



全国から多数の視察を受入れている
伝票作成自動化フローは
2/29の知的財産評価委員会にて
大学に帰属されたことが承認

新たな価値創出の第一弾

フローをパッケージ化することでビジネスモデルを創出し、収益を獲得する



自律的なDX人材育成を見据えた事務DX推進モデル

- ✓ RPAを含めたDXは“属人化”してしまう傾向がある
- ✓ 専門的な部会はサポートに留め、各部署が各部署でDXによる課題解決を図り、業務として同じ部署で次の者に引き継ぐ体制を取ることでDXに対する裾野が広がり、各部署が自律的に発展することを目指す

